

## 患者家族と良好な対人関係を築くための熟練看護師の技

高知県看護協会看護研究エキスパート育成研修グループ

看護部

青木佳世子

高知赤十字病院

○清水 慶子 高橋 知江

清生園病院

中越 貢

高知厚生病院

伊東 理砂

高知県立療育福祉センター 岡村珠美

### 【研究目的】

患者と比べ患者家族と接する機会が限られている中、良好な対人関係を築いている熟練看護師が存在する。これらの看護師は、良好な対人関係を築くために何らかの技を駆使しているのではないかと考え、用いている技を明らかにすることを目的とした。

### 【研究方法】

A県内3総合病院で勤務する研究主旨を理解した上司から推薦され、同意を得られた経験年数5年以上の看護師7名（平均年齢35.4歳、臨床経験年数平均12.4年）を対象者に、インタビューガイドを用いた半構成的な面接を行った。面接内容は、同意を得てテープに録音後、逐語記録にし、データとした。面接時間は、1人30～60分であった。データ分析は、質的帰納的な方法を用いて行い、スーパーヴィジョンを受けた。

### 【結果】

患者家族と良好な対人関係を築くための技として、【看護者の志向と信念】【患者家族に適切なケアを行う】【自分や他者の力を家族のケアに結集する】の3つの側面と8つのカテゴリーが明らかになった。

1. 【看護者の志向と信念】の側面には、自己の看護に対する信念を持ち、その人らしさや人間性を尊重した姿勢を大事にし、常に相手を分かりたいという姿勢を持って次の予測を立てつつ相手の言動に合わせて対応していく<看護者の基本姿勢を保持する>技や、豊かな人間性を基盤に技術と技能で専門性を構築しており、家族の思いに共感し、家族を看護したいという自己の信念を持つ<家族への看護について自己の信念を持つ>技があった。

2. 【患者や家族に適切なケアを行う】の側面には、常に家族に関心を持ち、受容・共感することで気持ちを支えながら、ニードもとらえ家族の力を引き出していき行動化につなげていく<家族の状況に合わせたケアを行う>技や、患者・家族を一つのユニットとしてとらえ家族に患者の情報を提供し、患者家族間のバランスを考えて調整していく<患者・家族を一つのユニットとしケアを行う>技や、今までの自分の知識や経験から患者の立場に立って接してもらえるように家族に働きかけ、患者にきちんとしたケアを行う<患者に適切な看護技術を提供する>技があった。

3. 【自分や他者の力を家族のケアに結集する】の側面には、家族の理解や対応に必要な知識や技術を専門内外問わず習得し、自分が患者家族になった時の経験や自分の持っている様々な知識や技術を活かす<知識や経験を家族へのケアに活かす>技や、家族の立場で関りができ、自分が行った家族への関りを振り返り、次の足がかりとしている<家族への関りを振り返る>技や、家族が直面している問題を他者と共通認識し家族の意向を把握した上で、様々な情報やネットワークや他職種や周囲の持っている力を活用し問題解決を図る<他者の力を家族のために集約して活用する>技があった。

### 【考察】

患者家族と良好な対人関係を築くための熟練看護師の技は、看護者としての自己の信念や、家族の問題に対応できるように自らを高める姿勢を背景とした、安心感や信頼感をもたらす適切な看護ケアのなかに内在し、患者家族に困難な問題が生じているときにも前向きな姿勢で自他の能力を活用して問題解決に取り組むという

実践の技であると考えた。そして、患者家族と看護者の相互作用プロセスにおいて、看護者のあり様に患者家族が一体感を得ることで良好な対人関係が築かれていくものとする。

〔平成14年9月7～8日、岩手郡にて開催の日本家族看護学会第9回学術集会で発表  
(抄録を掲載した)〕